



寄小のお勧めはこれだあ！

寄磯小学校

牡鹿半島の東に突き出た寄磯半島。正面に金華山を望み、後ろに東森山（通称あんばさん）がそびえ立つ。この地に135年前、寄磯小学校が誕生しました。

全校児童25人の明るい声が校舎に響きわたり、教室からは美しい歌声がこだまします。子ども達は何事にも一生懸命取り組み、「よひのそくべい」を大切にしながら日々成長しています。そんな寄小がお勧めする活動を皆さんにそつと教えます。

お勧めその1 『寄磯大運動会』VS『寄磯フェスティバル』

5月に大漁旗の下で行う寄磯大運動会、10月に行われる寄磯フェスティバルは小中学校が合同で行う一大イベントで、地域の方々も大変楽しみにしている行事です。どちらも小1から中3まで協力し合って取り組んでいます。運動会の紅白対抗全員リレー、フェスティバルでの合唱や劇は必見です。

お勧めその2 『島の楽校』VS『スキー合宿』

夏（7月）の島の楽校、冬（2月）のスキー合宿は、どちらも子ども達が楽しみにしている泊3日のお泊り行事です。

網地島の島の楽校で行う宿泊学習は、3～6年生が参加します。島では地域の



方々へ寄磯ソーランの披露、網小医院への慰問などの活動を行います。一番の楽しみは網地白浜でのシーカヤックです。オールを上手に操って、青い海を散歩するのが最高です。

一方スキー合宿は、全校児童で行う唯一のお泊り行事です。発表会ではみんなすばらしいすべりを披露してくれます。昨年までは岩手県の「いちのせき健康の森」でしたが、今年6月の地震で施設が利用できなくなり、今年は蔵王自然の家へ行くことになりました。みんな今からわくわくドキドキしています。

その他にもお勧めしたい活動はたくさんあります。皆さん、ぜひ、寄小のホームページにアクセスしてみてください。
<http://www.mediaship.ne.jp/eisyori/>

※「江戸っ子」などの言葉がけについて、お互いこころばなさを気を使い、思いやりの意味。

にぎやか家族 ③7

河南地区北村



写真左から、愛亜梨ちゃん、姫奈歌ちゃん、真夏斗くん

《将来の夢》

中塩 真夏斗くん（5歳） ゾロ（ワンピース）のように強い人
 愛亜梨ちゃん（3歳） かわいいお母さん
 姫奈歌ちゃん（1歳） 看護婦さん（ママより）

〈両親から〉

人にやさしく、思いやりのある子に育ててほしいと思います。

今月の表紙から

粉わさびやチューブ入りわさびの原料表示をみると「西洋わさび」と呼ばれるものが主原料となっているのをご存知ですか？

西洋わさびは、東ヨーロッパ原産の植物で、ホースラディッシュと称され、香り辛味の強いダイコンの一種です。その形は、細身のダイコンのようで、色も白く、すつても緑色ではなく、わさびとは趣きがだいぶ違います。すり下ろしたり、薄く刻んだりしてローストビーフなど付け合わせによく使われ、牡蠣や魚料理の薬味、ホースラディッシュソースなどのソース類にも使われます。

今回は、河北地区の赤間さんを訪れ、3畝程の畑に葉が大きく育ち、もつすゝ収穫を迎えるところを取材しました。収穫時期は、10月中旬から始まり2月ごろまでで、道の駅上品の郷にも並んでいます。

また、赤間さんでは、ハヤトウリやウコン、



赤間正勝さん・かみ三さん・祐子さん（河北飯野本地地区）

タケノコ、ブルーベリー、栗などを栽培し、それぞれの特徴などを親切に教えていただきました。

赤間さんは「作っていて、おいしかったという声がとてもうれしく、『おいしー』と言ってくれると、とても作りがいがありますね」と話していました。



サークル仲間

なかま ③7

心に響く素敵な歌声

石巻シャンソン愛好会

石巻シャンソン愛好会は、石巻でもシャンソンが歌いたいという思いで、平成16(2004)年5月に設立しました。現在、会員は16人、毎月第2・第4土曜日の午後に石巻中央公民館で練習をしています。毎月2曲ほどを練習し、指導する岡野正春先生(仙台市在住)が、その曲のCDを会員に配り、自宅でも練習できるように工夫しています。

岡野先生は「みんな熱心に練習しているの上達も早いですね。たまに私が冗談を言うと、それをまねしていることもあり、とても楽しい教室になっています」と話していました。



第三回
石巻シャンソン愛好会
発表会2007年11月

6月にはコンサート、11月には市内ホテルで発表会を行い、この日は、11月8日(土)に行われる第46回石巻中央公民館文化祭で披露する曲「花祭り」を練習していました。先生のピアノにあわせ、みんな軽快に、そして笑顔で歌っていました。代表の平井美穂さんは「みんな歌が大好きで、これからも楽しく歌っていきたいですね。それに、この輪を広げていきたいので、特に、男性会員を募集中です。歌が好きな方、一緒に歌いましょう」と話していました。

羽ばたけ！ 若人 ⑥



佐々木 和美君
(蛇田中学校3年)

8月20日(水)に、新潟市を会場に行われた第35回全日本中学陸上競技選手権大会の砲丸投競技で優勝し、今後の活躍が大いに期待される佐々木和美君を紹介します。

佐々木君が砲丸投競技を始めたのは中学1年のときです。以前は、野球をやっていたのですが、足の病気のため野球が続けられなくなり、当時の担任で、陸上部顧問の先生に誘われたのがきっかけでした。足のリハビリにもいいと思い陸上部に入部したのですが、1年生のときに出場した通信陸上大会で、好成績を挙げたことが自信につながり、競技意欲が沸いてきたそうです。

佐々木君が今年の東北中学校体育大会で記録した15kg92は、東北中学記録で、2006年に記録された日本中学記録(16kg70)に次ぐものです。

184kgの恵まれた体格もさることながら、日々の厳しい練習で磨いた技術と、常に平常心で試合に臨んでいることが強きの秘訣です。

目標とする選手は、一緒に練習をしたこともある、以前このコーナーでも紹介した菅原和紀選手(現東海大学)です。最近、記録が思うように伸びず、多少悩んでいる様子でしたが、今は、そんな不安を払拭して、練習に励んでいます。佐々木君は、「全国大会で優勝したときに喜んでくれた姿は生涯忘れません」と話していました。

今後、さまざまな試練が彼を待ち受けていることと思いますが、苦業を共にできる、なかま、がたくさんいることを励みに、オリンピック出場という大きな夢を、ぜひ実現させてください。

